大阪大学附属図書館将来構想 2025-2030

オープン化の時代に即した、阪大の新しい知の循環へ貢献する図書館

2025年3月12日 図書館委員会承認

2025年3月19日 部局長会議報告

4つの軸

2030年の姿

ビジョン

図書館の役割と目標

1. 情報の発見・入手・利活用をサポートする

すべての学生や研究者が場所や時間を問わず、学習や研究に没頭できる環境を提供する

- 学習・教育・研究のオンライン化への貢献
- 多様なニーズに対応したユーザビリティ・アクセシビリティの実現
- 自由な発想が生まれる場の整備
- 生成AI時代の情報リテラシー教育への貢献
- 学問分野に特化した研究サポートの提供

2. 研究成果を継承・発信する

館内外との連携により、研究成果の継承・発信を強力に支援する体制を構築し、知のサイクルの循環に貢献する

- 学術情報流通のネットワークにおける、本学の知的資源の強力な発信
- 研究者のニーズに応える研究成果の継承・発信の実現
- 全学的な研究データ管理体制への積極的な参画

3. 大学の知と社会を繋ぐ

大学の「知」と社会を繋ぐ役割を向上させるとともに、箕面市立船場図書館における地域・社会・市民との共創に積極的に取り組む

- 社会への高度な学習機会の提供とその効果的な発信
- 箕面市立船場図書館における知的協働の実現

4. 図書館機能の基盤を整備・強化する

情報の発見・入手・利活用のサポート、研究成果の継承・発信、大学の「知」を社会と繋ぐための基盤を整える

- 利用者の学習・教育・研究活動を支える学術情報の整備
- 求められる業務に必要な能力を備えた人材の確保と持続可能な組織体制の整備
- 安全・安心を実現する図書館施設および災害対策の整備
- 図書館機能強化の実現に必要な財政基盤の整備

大阪大学附属図書館は、学術情報の基盤として、利用者が既存の「知」を発見・活用し、新たな「知」を創出・継承・発信するサイクルを能動的にサポートすることで、学習・教育・研究の成果を最大化する